

令和5年度 第75回全国高等学校通信制教育研究会 総会並びに研究協議会（京都大会） 実施報告書

事項	内 容
事業名	令和5年度 第75回全国高等学校通信制教育研究会 総会並びに研究協議会（京都大会）
期 日	令和5年6月15日（木）～令和5年6月16日（金）
開催場所	京都テルサ
主 催	全国高等学校通信制教育研究会 近畿地区高等学校通信制教育研究会
後 援	文部科学省 滋賀県教育委員会 大阪府教育委員会 兵庫県教育委員会 奈良県教育委員会 和歌山県教育委員会 京都府教育委員会（公財）全国高等学校定時制通信制教育振興会 全国高等学校定時通信制高等学校長会 全国高等学校定時制通信制教頭・副校長協会 全国私立通信制高等学校協会 京都府高等学校定時制通信制教育振興会 京都府公立高等学校長会 京都府立高等学校副校長会（公財）日本教育公務員弘済会京都支部 NHK NHK出版
参加者	105校326名（来賓、NHK、NHK出版等含む）
実施目的	高等学校通信制課程は定時制課程とともに制度化されてから76年の歴史を持つ。受け入れる生徒は、当初の勤労青年中心から、社会情勢の変化とともに不登校生徒や高校中退生徒の増加に加え、最近では自由に時間を使いたいという積極的な理由で進学する生徒など、多様化の一途を辿っている。今後は、通信制本来の自主的・自律的に勉強する姿勢を養いながら、多様な可能性を期待する個々の生徒のニーズに応えつつ、一方で全日制や定時制同様の「資質・能力」を育成することが求められる。今回、研究協議を進める中で課題を明確にし、通信制教育のあり方を確認することを目的とする。
実施内容	○総会・研究協議会 1 開会式・閉会式 2 総会 3 文科省講演 「これからの高等学校のあり方について」 初等中等教育局参事官（高等学校担当） 付参事官補佐 4 研究協議会（分科会・全体会） 第1分科会 学校運営 213名 第2分科会 学習（地歴公民） 61名 第3分科会 学習（家庭科） 34名 第4分科会 学習（情報） 58名 第5分科会 放送教育 11名 第6分科会 人権教育・教育相談 84名 4 講演会 ○大会集録の発刊 ※ 全国通信制校長会総会・研究協議会 75名 ※ 放送教育研究連絡協議会 委嘱校 7校7名 本部放送教育研究委員 8名 ※ NHK関係者2人 アドバイザー 森田 裕介（早稲田大学・教授）
参加費	加盟校： 7,000円 一般参加： 10,000円
成 果	令和元年度の長崎大会以来の対面開催となった京都大会は、参加者数では長崎大会に及ばなかったものの、久しぶりの対面開催となり研究協議会や講演会での活発な協議・質疑応答がなされた。オンライン開催に勝る対面開催の良さを改めて感じる事ができた大会であった。特に研究協議会では加盟各校の貴重な実践事例が報告され、参加者自身が知見を深めるとともに、今後の通信制教育の在り方に対する示唆が得られたと考えられる。また、2日目の全体協議会では参加者全員が通信制教育の方向性等について再確認することができた。（※分科会の発表タイトルは次頁参照） 第1分科会（学校運営）では、神奈川県立厚木清南高等学校を中心とした神奈川県立の通信制高校の取組について詳細な発表がなされた。続く神奈川県立横浜修悠館高等学校の発表では通信制教育在り方委員会の加盟校アンケートを元に、通信制課程における観点別評価の課題が発表された。島根県立宍道高校、広島市立みらい創生高校、横浜修悠館高校の実践事例の発表も行われた。2日目は質疑応答とパネルディスカッションが開催され活発な議論と情報共有がなされた。 第2分科会（地理歴史科・公民科）では今治精華高等学校と福井県立道守高等学校からの発表がなされた。各校の現状と課題について活発な協議と情報共有がなされた。特に通信制課程への赴任間もない教員から積極的な質問がなされた。 第3分科会（家庭科）では岩手県立杜陵高等学校と山梨県立山梨中央高等学校からの発表がなされた。外部機関（少年院等）との連携や学校外での実習についての興味深い内容が発表された。また研究協議では実習の在り方やICTの活用についての協議と情報共有がなされた。 第4分科会（情報）では沖縄県立泊高等学校と島根県立宍道高等学校からの発表がなされた。それぞれの高校で実践されてスクーリングにおける特色ある取組が取り上げられた、活発な質疑応答がなされた。また大学入試共通テストにおける情報の導入に関する話題も取り上げられ情報交換がなされた。

<p>第5分科会（放送教育）では委嘱校である向陽台高等学校、栃木県立学悠館高等学校、NHK 学園高等学校の3校からの発表がなされた。ICT 機器・アプリケーションの活用やメディア活用など先進的な事例が紹介された。さらにNHK エデュケーショナル担当者から高校講座のオンデマンド視聴に係る新機能についての解説があった。2日目にはでは質疑応答と早稲田大学・森田教授からの指導助言、その後、参加者によるグループワークを実施し、協議と情報交換を行った。</p> <p>第6分科会（人権教育・教育相談）では大阪府立桃谷高等学校と宮城県立美田園高等学校からの発表がなされた。不登校経験生徒や外国籍生徒、障害のある生徒など、困難な課題をもつ生徒に寄り添った教育相談と特別支援体制について活発な協議と情報交換を行った。</p> <p>記念講演では2021年9月 イグノーベル賞 動力学賞を受賞された京都工芸繊維大学情報工学・人間科学系助教の村上 久氏から「互いに動きを読み合うことが群れに秩序をもたらす」の演題で講演をいただいた。生物の群れの動きを研究することで人間集団の動きの秩序形成を究明する研究であった。活発な質疑応答がなされた。</p> <p>大会の記録として「大会集録」を編集・作成し、加盟校、関係各所に配布し、大会で得られた成果を共有するとともに、次年度開催地の広島県に、その成果を引き継いでいきたい。近年の高校教育の変化の中で通信制課程が果たす役割が大きくなっていることから、今後通信制教育が一層、充実・発展していくための知見共有、協議の場として、全国大会の実地開催は大変有意義であった。</p>

分科会発表一覧

分科会	分野・教科	発表学校名	発表テーマ等
第1	学校運営	神奈川県立厚木清南高等学校	「神奈川県立高校通信制のあゆみと厚木清南高校の通信制教育」
		神奈川県立横浜修悠館高等学校	通信制課程における「観点別評価」と「GIGA スクール体制」の課題
第2	学習指導 (地歴公民)	今治精華高等学校	「本校地歴公民科の現状」
		福井県立道守高等学校	「本校地歴科の現状と課題」
第3	学習指導 (家庭)	岩手県立杜陵高等学校	「本校における家庭科指導の現状と授業実践」
		山梨県立山梨中央高等学校	「「地域研究（家庭科）」の学習指導について（実践報告）」
第4	学習指導 (情報)	沖縄県立泊高等学校	「レポートを活用したプレゼンテーション実習の実践」
		島根県立宍道高等学校	「宍道高等学校における情報教育の実践」
第5	放送教育	向陽台高等学校	「本校（向陽台高等学校）でのEdTech 展開における放送教育題材に類する題材の活用について～問題の背景と取り組みの現況～」
		栃木県立学悠館高等学校	「生徒の自学自習を支える効果的な放送教育の実践」
		NHK 学園高等学校	「NHK 高校講座における放送教育の研究—スモールステップ法導入による学習効果」
第6	人権教育・ 教育相談	大阪府立桃谷高等学校	「本校の人権教育と教育相談の取り組み—生徒の学ぶ権利を保障する視点から」
		宮城県立美田園高等学校	「本校における特別支援体制」
講演会	講師名（所属・職名）		講演題
	村上 久（京都工芸繊維大学・助教） 2021年9月 イグノーベル賞 動力学賞受賞		「互いに動きを読み合うことが群れに秩序をもたらす」